

令和3年産

# 気仙沼・南三陸 稲作情報 総括号

令和3年12月16日発行

宮城県米づくり推進気仙沼地方本部・宮城県気仙沼農業改良普及センター

TEL 0226-25-8069 FAX 0226-22-1606

## 【令和3年産水稲の作柄（予想収穫量）】

宮城県東部	収穫量	551kg/10a	（前年差 -6kg）	※1.70mm ベース
		524kg/10a	（前年差 -9kg）	※1.90mm ベース
	作況指数	101	（平年並）	

（東北農政局，令和3年12月8日公表）

### 1 気象経過

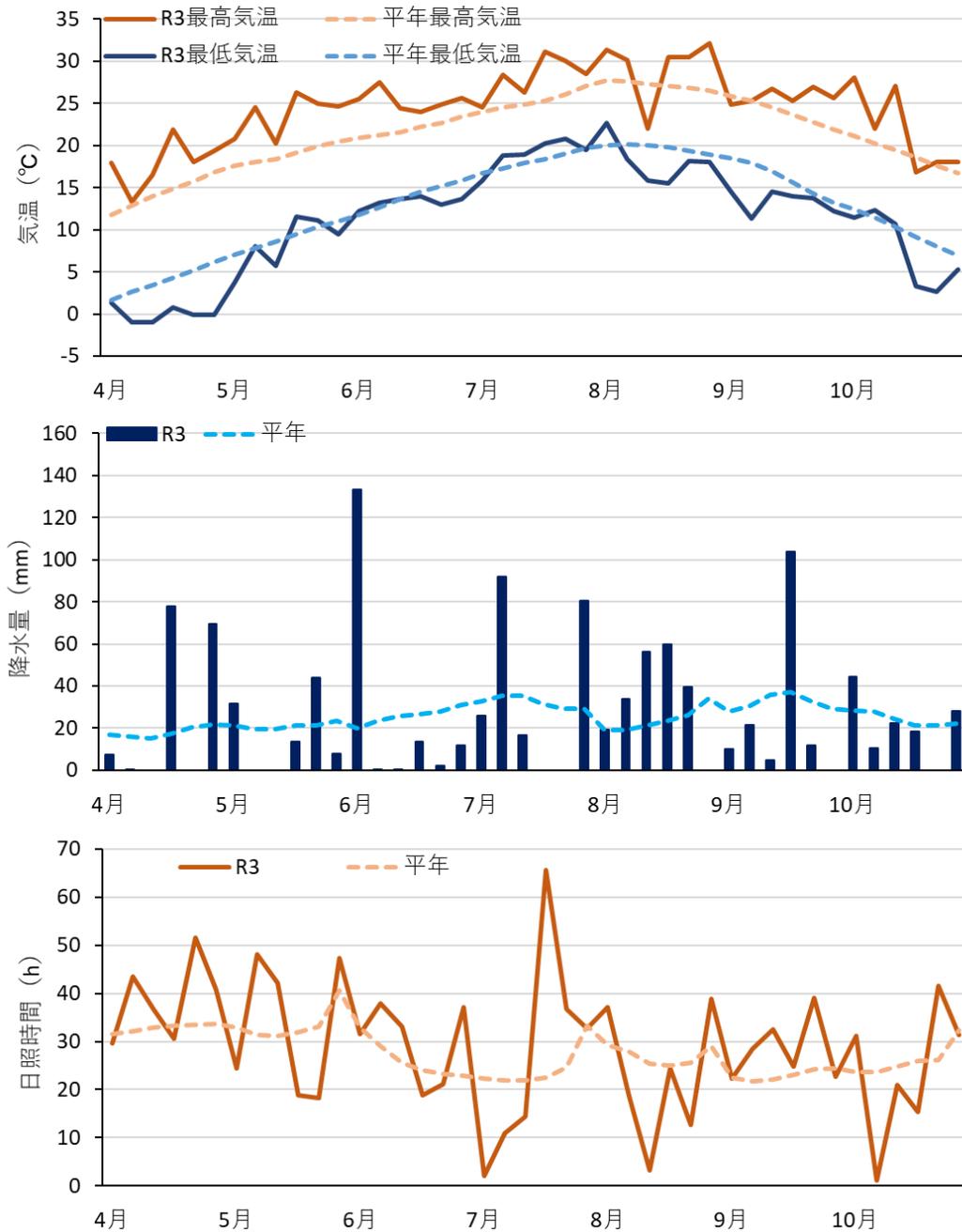


図1 令和3年稲作期間の気象経過図（気仙沼アメダス）

## 2 管内の生育経過

### (1) 育苗

- ・管内の播種盛期は平年より1日早い4月14日でした(表1)。
- ・育苗期にあたる4月は、最高気温は平年を上回ったが、最低気温は平年を下回り(図1)、生育の停滞が見られました。

表1 播種作業の進捗経過

	播種始期	播種盛期	播種終期
本年	4月3日	4月14日	4月22日
前年	4月5日	4月15日	4月23日
平年	4月6日	4月15日	4月22日
前年差	-2	-1	-1
平年差	-3	-1	0

注1) 始期, 盛期, 終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5, 50, 95%で作業が終了した日

注2) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

### (2) 田植え

- ・管内の田植盛期は平年より1日早い5月15日でした(表2)。
- ・移植後は高温傾向で推移したため、活着・初期生育は良好でした。

表2 田植作業の進捗経過

	田植始期	田植盛期	田植終期
本年	5月8日	5月15日	5月26日
前年	5月9日	5月16日	5月24日
平年	5月10日	5月16日	5月24日
前年差	-1	-1	2
平年差	-2	-1	2

注1) 始期, 盛期, 終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5, 50, 95%で作業が終了した日

注2) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

### (3) 出穂

- ・移植以降高温で推移したため生育は早まり、管内の出穂期は平年より5日早い8月2日となりました(表3)。

表3 出穂の進捗経過

	出穂始期	出穂盛期	穂揃期
本年	7月30日	8月2日	8月7日
前年	8月4日	8月7日	8月13日
平年	8月3日	8月6日	8月12日
前年差	-5	-5	-6
平年差	-4	-4	-5

注1) 始期, 盛期, 終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5, 50, 95%で作業が終了した日

注2) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

#### (4) 刈り取り

- ・ 出穂期は大きく早まったものの、8月中旬の降雨・低温により登熟は一時停滞したため、刈取始期は平年より3日早い9月20日、刈取盛期は平年より2日早い10月3日と出穂期ほど早まりませんでした。以降は順調に作業が進み、刈取終期は平年より6日早い10月11日となりました(表4)。

表4 刈取作業の進捗経過

	刈取始期	刈取盛期	刈取終期
本年	9月20日	10月3日	10月11日
前年	9月19日	10月3日	10月15日
平年	9月23日	10月5日	10月17日
前年差	1	0	-4
平年差	-3	-2	-6

注1) 始期, 盛期, 終期はそれぞれ水稲作付見込面積の5, 50, 95%で作業が終了した日

注2) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

### 3 水稲生育調査ほの生育調査結果

#### (1) 生育状況

- ・ 草丈は本吉では7月下旬からやや低く、志津川では平年並で推移しました(図3, 4)。
- ・ 茎数は本吉では、高温により6月まで平年を大きく上回りましたが、7月以降は減少に転じ、平年並となりました。志津川ではおおむね平年並みで推移しました(図3, 4)。
- ・ 葉数は本吉では7月1日まで平年並、以降はやや少なく、志津川では期間をとおして平年より少なく推移しました(図3, 4)。
- ・ 葉色は本吉では、6月21日から7月20日にかけてやや低く、志津川では6月21日以降おおむね平年並で推移しました(図3, 4)。

表5 水稲生育調査ほにおける生育ステージの推移

		田植日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
気仙沼市 (気仙沼)	本年	5月16日	7月12日	7月27日	8月6日	9月21日	46日間
	前年	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-
気仙沼市 (本吉町)	本年	5月12日	7月6日	7月18日	7月29日	9月11日	44日間
	前年	5月14日	7月12日	7月22日	8月5日	9月17日	43日間
	平年	5月15日	7月13日	7月23日	8月4日	9月20日	47日間
	前年差	-2	-6	-4	-7	-6	1
	平年差	-3	-7	-5	-6	-9	-3
南三陸町 (志津川)	本年	5月13日	7月6日	7月19日	7月30日	9月10日	42日間
	前年	5月12日	7月10日	7月20日	8月5日	9月17日	43日間
	平年	5月12日	7月12日	7月22日	8月4日	9月17日	45日間
	前年差	1	-4	-1	-6	-7	-1
	平年差	1	-6	-3	-5	-7	-3
ひとめぼれ 県内平均 調査ほ場数	本年	5月12日	7月6日	7月16日	7月29日	9月12日	45日間
	前年	5月13日	7月9日	7月21日	8月5日	9月13日	39日間
	平年	5月13日	7月9日	7月20日	8月3日	9月14日	42日間
	本年24か所 前年23, 平年15	前年差	-1	-3	-5	-7	-1
	平年差	-1	-3	-4	-5	-2	3

注1) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均(志津川は平成30年からの3か年平均)

注2) 気仙沼は令和3年度から調査開始のため平年値, 前年値ともなし。

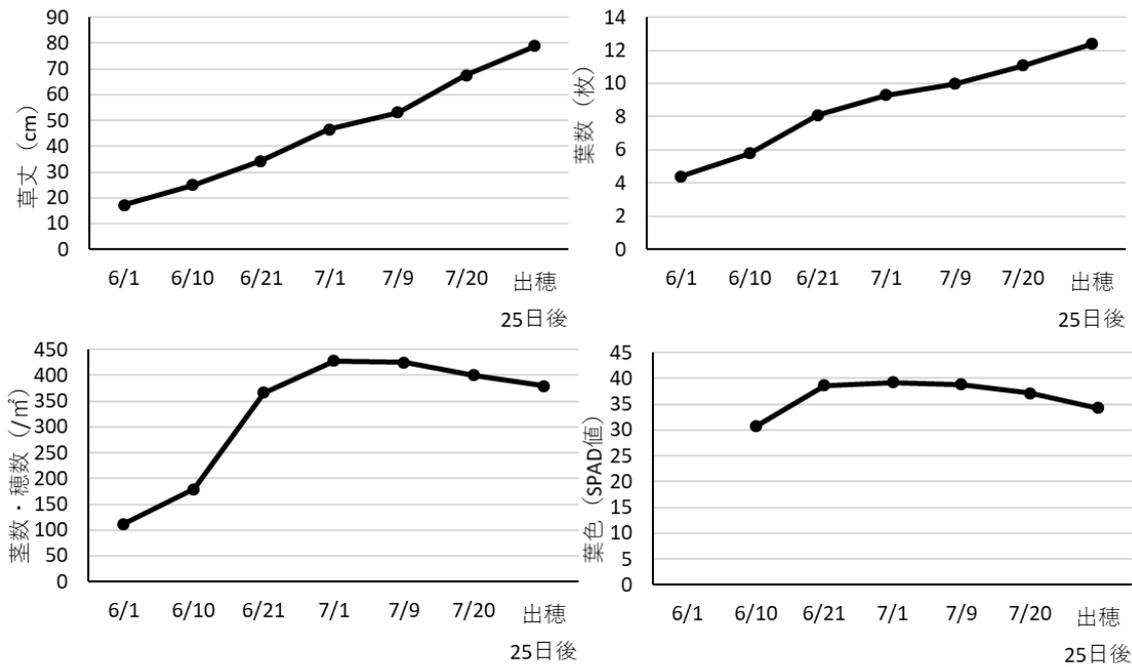


図2 水稲生育調査ほの生育経過（気仙沼ひとめぼれ）

注）本年度から調査開始のため、前年値・平年値はともになし。

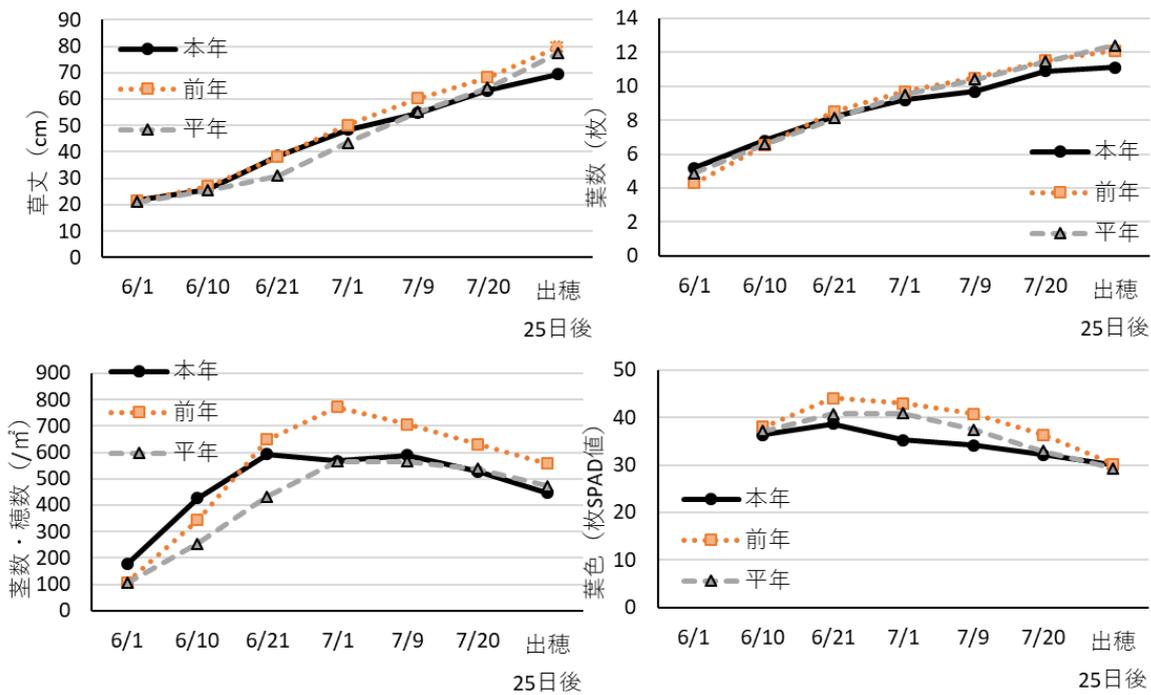


図3 水稲生育調査ほの生育経過（本吉ひとめぼれ）

注）平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

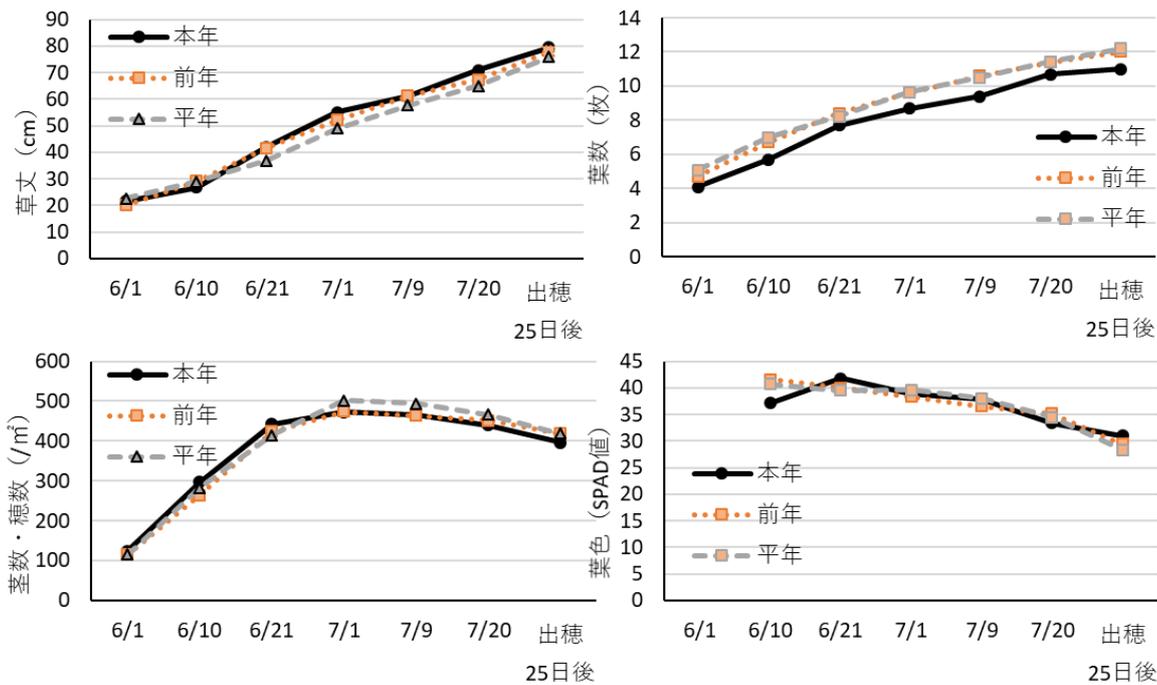


図4 水稻生育調査ほの生育経過（志津川ひとめぼれ）

注）平年値は平成30年から令和2年までの3か年平均

## （2）収量・品質

- ・気仙沼では $m^2$ 当たり穂数が少なかったものの、登熟歩合が高く、千粒重が大きくなり、精玄米重は県平均並となりました（表6）。農家間取収量は約435kg/10aとなりました。
- ・本吉では、 $m^2$ 当たり穂数、1穂籾数が少なく、 $m^2$ 当たり籾数が平年を下回ったことから、精玄米重も平年を下回りました（表6）。農家間取収量は約480kg/10aとなりました。
- ・志津川では、 $m^2$ 当たり穂数が平年を下回ったものの、1穂籾数は平年を上回り、 $m^2$ 当たり籾数、登熟歩合、千粒重が平年と同等以上だったことから、精玄米重は平年を上回りました（表6）。農家間取収量は約546kg/10aとなりました。
- ・玄米の検査結果はほぼ1等で品質は概ね良好でしたが、その他未熟粒が多く、本吉では斑点米カメムシ類による着色粒もみられました（表7）。

表6 水稲生育調査ほにおける収量調査結果

品種 地区		穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂粒数 (粒)	m <sup>2</sup> 当たり 粒数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	整粒歩合 (%)	白未熟 粒比 (%)	玄米タン パク質 (%)
気仙沼市 (気仙沼)	本年	379.6	68.5	260	94.6	24.3	55.5	96.2	0.7	-
	前年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
気仙沼市 (本吉町)	本年	447.2	59.2	265	80.3	22.9	48.7	68.9	3.9	6.6
	前年	544.7	63.4	345	84.3	21.2	61.7	84.0	3.0	7.1
	平年	467.8	62.1	294	83.3	22.5	54.8	80.4	6.3	6.4
	前年比 平年比	-97.5 -20.6	-4.2 -2.9	-81 -29	-4.0 -3.0	1.7 0.4	-13 -6.1	-15.1 -11.4	0.9 -2.4	-0.5 0.2
南三陸町 (志津川)	本年	397.4	63.8	250	90.9	23.1	52.6	67.4	3.4	6.7
	前年	440.8	63.8	281	88.5	22	54.8	82.1	3.2	7.2
	平年	424.1	58.1	246	89.2	22.1	48.5	81.3	6.5	6.4
	前年比 平年比	-43.5 -26.7	0 5.7	-31 5	2.4 1.7	1.1 1.0	-2.2 4.1	-14.7 -13.8	0.2 -3.1	-0.5 0.3
ひとめぼれ 県内平均 調査ほ場数	本年	444.4	68.5	303	80.5	22.5	54.3	64.2	4.5	6.7
	前年	440.7	66.7	294	89.3	21.4	56.5	81.3	5.2	7.3
	平年	464.3	64.5	298	83.1	22.4	55.4	74.7	9.1	6.7
	前年比 平年比	3.8 -19.8	1.8 4.0	9 5	-8.7 -2.5	1.0 0.0	-2.2 -1.1	-17.1 -10.6	-0.7 -4.6	-0.6 0.0
本年24か所 前年23, 平年15										

注1) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均(志津川は平成30年からの3か年平均)

注2) 気仙沼は令和3年度から調査開始のため平年値、前年値ともなし。

注3) 登熟歩合以降は1.90mmの篩い目による調査結果

注4) 玄米タンパク質はFOSSによる分析値

表7 水稲生育調査ほにおける品質調査結果

地区	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
気仙沼	85.0	1.6	0.4	1.9	11.0	0.0	0.0	0.1
本吉	68.9	5.4	3.9	0.7	20.1	0.2	0.2	0.6
志津川	67.4	2.7	3.4	2.7	23.2	0.0	0.1	0.5
県平均	64.1	6.9	4.3	2.6	20.8	0.0	0.5	0.7

注) 古川農業試験場調査 穀粒判別器 RGQ1100B(サタケ社)による

### 3 だて正夢現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果

#### (1) 生育状況

- ・田植日は前年並で、8月上旬まで高温で推移したことから生育ステージはやや早まり、幼穂形成期は平年より6日早く、出穂期は平年より2日早くなりました(表8)。
- ・生育期間をとおして、草丈、葉数はおおむね前年並で推移しました。茎数が増えづらい本品種の特性を踏まえ、植付本数を増やし、栽植密度を高めたことと、高温で推移したことにより㎡当たり茎数は平年を大きく上回って推移しましたが、葉色は低下し、2回の追肥を行ったものの無効茎数が多くなりました(図5)。

表8 だて正夢現地栽培技術普及展示ほにおける生育ステージの推移

		田植日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本年	5月14日	7月9日	7月20日	8月4日	9月22日	49日間
	前年	5月13日	7月16日	7月28日	8月8日	9月25日	48日間
	平年	5月13日	7月15日	7月25日	8月6日	9月24日	49日間
	前年差	1	-7	-8	-4	-3	1
	平年差	1	-6	-5	-2	-2	0
だて正夢 県内平均 調査ほ場数	本年	5月11日	7月9日	7月19日	8月1日	9月17日	45日間
	前年	5月11日	7月12日	7月25日	8月8日	9月21日	44日間
	平年	-	-	-	-	-	-
本年10か所	前年差	0	-3	-6	-7	-4	1
前年10か所	平年差	-	-	-	-	-	-

注1) 平年値は平成29年から令和2年までの4か年平均

注2) 県内は地点ごとに継続年数が異なるため、平年値なし

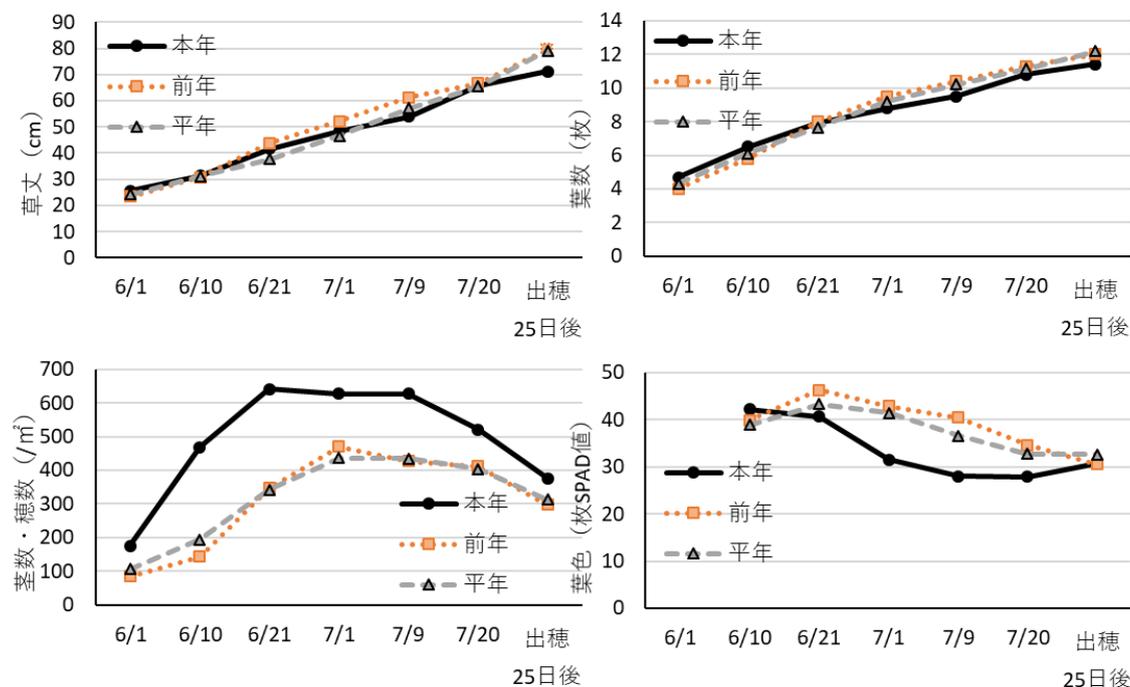


図5 だて正夢現地栽培技術普及展示ほにおける生育経過

注) 平年値は平成29年から令和2年までの4か年平均

## (2) 収量・品質

- ・m<sup>2</sup>当たり穂数は平年より多くなりましたが、1穂籾数は少なく、m<sup>2</sup>当たり籾数は平年を下回りました。一方、登熟歩合、千粒重、整粒歩合は平年を上回り、白未熟粒は少なくなりました（表9）。
- ・精玄米重は、481kg/10aと前年を下回ったものの、平年を上回りました（表9）。農家間取収量では、約450kg/10aとなりました。
- ・県平均と比較して整粒が多く、未熟粒、被害粒は少なくなり、品質はおおむね良好でした（表10）。

表9 だて正夢現地栽培技術普及展示ほにおける収量調査結果

品種 地区		穂数 (本/m <sup>2</sup> )	1穂籾数 (粒)	m <sup>2</sup> 当たり 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	整粒歩合 (%)	白未熟 粒比 (%)	玄米タン パク質 (%)	
だて正夢 気仙沼市 (本吉町)	本年	376.0	58.9	221	97.1	22.4	48.1	62.6	2.9	6.4	
	前年	297.0	96.0	286	84.9	20.1	50.1	25.9	45.6	6.5	
	平年	355.6	80.0	264	81.7	22.0	44.6	51.0	30.1	6.3	
	前年比	79.0	-37.1	-65	12.2	2.3	-2	36.7	-42.7	-0.1	
	平年比	20.4	-21.1	-43	15.4	0.4	3.5	11.6	-27.2	0.1	
だて正夢 県内平均 調査ほ場数	本年	388.2	86.8	335	80.9	21.0	55.2	52.1	1.3	6.8	
	前年	374.3	93.8	350	85.5	19.1	55.8	28.9	42.0	6.4	
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	本年10か所	前年比	14.0	-7.0	-14	-4.6	1.9	-0.6	23.2	-40.7	0.4
	前年10か所	平年比	-	-	-	-	-	-	-	-	

注1) 平年値は平成29年から令和2年までの4か年平均

注2) 県内は地点ごとに継続年数が異なるため、平年値なし

注3) 玄米タンパク質はFOSSによる分析値

表10 だて正夢現地栽培技術普及展示ほにおける品質調査結果

地区	みなし 整粒比 (%)	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
本吉	97.6	62.6	0.4	2.9	0.3	32.1	0.1	0.0	1.6
県平均	93.6	52.1	0.4	4.9	2.5	36.7	0.0	0.6	2.9

注1) 古川農業試験場調査 穀粒判別器 RGQ1100B (サタケ社) による

注2) みなし整粒比=整粒+白未熟粒+その他未熟粒

#### 4 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほの生育調査結果

##### (1) 生育状況

- ・田植日は標準的な時期でしたが、8月上旬まで高温で推移したことから生育ステージは早まったと考えられます（表 11）。
- ・生育期間をとおして、 $m^2$ 当たり茎数は順調に増加したものの、本品種の特性もあり葉色が急に低下しました。2回の追肥を行ったものの、最終的な $m^2$ 当たり穂数は目標（440～490本/ $m^2$ ）を下回りました（図 6）。

表 11 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほにおける生育ステージの推移

		田植日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
金のいぶき 気仙沼市 (本吉町)	本年	5月11日	7月9日	7月24日	8月5日	9月25日	51日間
	前年	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-
	前年差	-	-	-	-	-	-
	平年差	-	-	-	-	-	-

注1) 令和3年度から調査開始のため平年値、前年値ともなし。

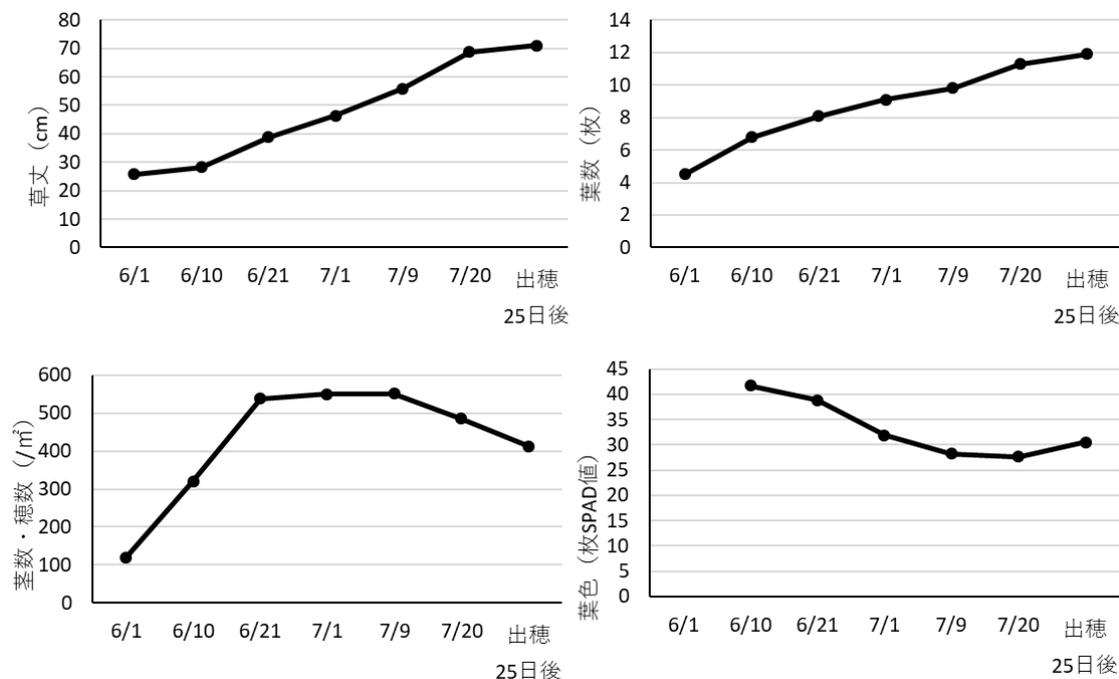


図 6 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほにおける生育経過

注) 令和3年から調査開始のため、平年値、前年値はともなし

## (2) 収量・品質

- ・1穂籾数は目標（64～72粒/穂）に達したものの㎡当たり穂数が少なく、㎡当たり籾数も少なくなりました（目標：30～33千粒）。また、登熟歩合も目標の70～75%を下回りました。一方、千粒重は目標（22.5～23.2g）に達しました（表12）。
- ・精玄米重は、376kg/10aとなりました（表12）。農家間取収量では、約390kg/10aとなりました。
- ・県平均と比較して品質はおおむね同程度でした（表13）。

表12 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほにおける収量調査結果

品種 地区		穂数 (本/㎡)	1穂籾数 (粒)	㎡当たり 籾数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	整粒歩合 (%)	白未熟 粒比 (%)	玄米タン パク質 (%)
気仙沼市 (本吉町)	本年	412.6	64	264	61.6	23.1	37.6	2.1	74.6	6.9
	前年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
県内平均 調査ほ場数 本年10か所	本年	432.6	69.9	303	62.5	22.6	43.0	1.9	77.7	7.6
	前年	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	平年	-	-	-	-	-	-	-	-	-

注1) 令和3年度から調査開始のため平年値、前年値ともなし。

注2) 玄米タンパク質はFOSSによる分析値

表13 金のいぶき現地栽培技術普及展示ほにおける品質調査結果

地区	みなし 整粒比 (%)	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
本吉	77.5	2.1	0.3	74.6	0.0	0.8	0.8	21.0	0.5
県平均	81.3	1.9	0.3	77.6	0.5	1.8	0.8	16.2	0.9

注1) 古川農業試験場調査 穀粒判別器 RGQ1100B (サタケ社) による

注2) みなし整粒比=整粒+白未熟粒+その他未熟粒

## 5 水稲直は栽培現地技術普及展示ほの生育調査結果

### (1) 生育状況

- ・播種日は平年より7日早く、8月上旬まで高温で推移したことから生育ステージは早まったと考えられます(表14)。
- ・出芽・苗立は良好で、生育期間をとおして茎数は順調に増加したものの、ピークの7月1日時点で $m^2$ 当たりの茎数が800本を超える過繁茂となりました。追肥を行ったものの7月の葉色は低く推移しました。穂数は467本/ $m^2$ となり、無効分けつが多かったものの、目標となる410~460本/ $m^2$ をおおむね達成しました(図7)。

表14 直は栽培現地技術普及展示ほにおける生育ステージの推移

		播種日	幼穂形成始期	減数分裂期	出穂期	成熟期	登熟期間
直は (ひとめぼれ)	本年	5月6日	7月13日	7月27日	8月8日	9月23日	46日間
	前年	5月8日	7月25日	8月5日	8月18日	10月8日	51日間
気仙沼市 (本吉町)	平年	5月13日	7月24日	8月4日	8月18日	10月6日	49日間
	前年差	-2	-12	-9	-10	-15	-5
	平年差	-7	-11	-8	-10	-13	-3

注1) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

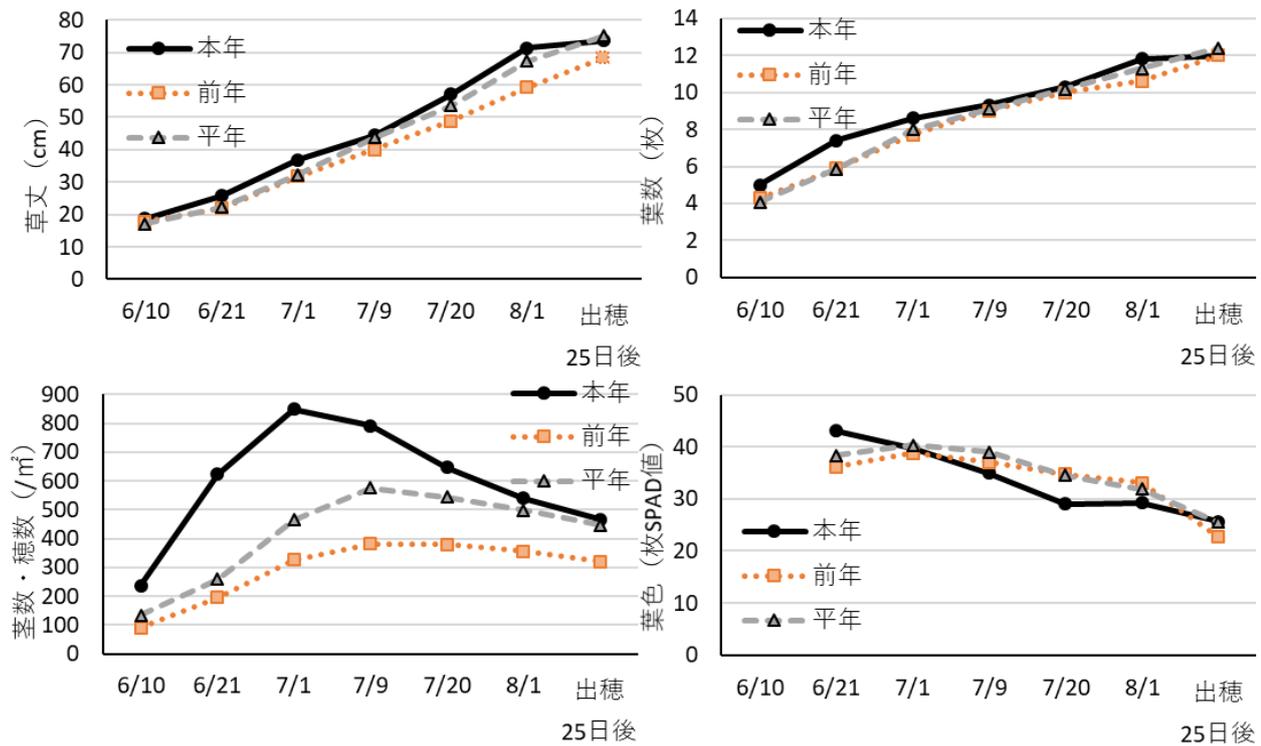


図7 直は栽培現地技術普及展示ほにおける生育経過

注) 平年値は平成28年から令和2年までの5か年平均

## (2) 収量・品質

- ・1穂粒数， $m^2$ 当たり粒数および千粒重はともに目標（60～70粒/穂，28～30千粒/ $m^2$ ，22.3g）に達したものの，登熟歩合が低くなりました（目標：85～90%）（表15）。
- ・精玄米重は，391kg/10aとなりました（表15）。農家間取収量では，約390kg/10aとなりました。
- ・県平均と比較して品質は同等以上でした（表16）。

表15 直は栽培現地技術普及展示ほにおける収量調査結果

品種 地区		穂数 (本/ $m^2$ )	1穂粒数 (粒)	$m^2$ あたり粒 数 (百粒)	登熟歩合 (%)	千粒重 (g)	精玄米重 (kg/a)	整粒歩合 (%)	白未熟 粒比 (%)	玄米タン パク質 (%)
直は (ひとめぼれ)	本年	467.0	64.0	299	56.6	23.1	391.0	71.8	1.3	5.7
	前年	320.5	48.9	157	98.0	22.0	310.6	-	-	-
気仙沼市 (本吉町)	平年	-	-	-	95.3	22.0	332.2	-	-	-
	前年比	146.5	15.1	142	-41.4	1.1	80.4	-	-	-
	平年比	-	-	-	-38.7	1.1	58.8	-	-	-

注1) 平年値はデータが確認できた平成28、30、令和2年の3か年平均

注2) 玄米タンパク質はFOSSによる分析値

注3) -はデータなし

表16 直は栽培現地技術普及展示ほにおける品質調査結果

地区	整粒 (%)	胴割粒 (%)	白未熟粒 (%)	青未熟粒 (%)	その他 未熟粒 (%)	着色粒 (%)	死米 (%)	被害粒 (%)
本吉	71.8	0.3	1.3	0.8	24.3	0.0	0.9	0.6
県平均	65.3	1.1	3.0	5.9	23.6	0.1	0.4	0.6

注) 古川農業試験場調査 穀粒判別器 RGQ100B (サタケ社) による

## 6 作況と品質

### (1) 作況

- ・水稻の10a当たり収量は547kgで，前年産に比べ5kg減少しました。  
なお，農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は101の平年並となりました。  
(12月8日公表，東北農政局，表17)。

表17 令和3年産水稻の収穫量と作況指数（令和3年12月8日現在，東北農政局）

区分	1.70mmのふるい目		1.90mmのふるい目			
	10a当たり収量 (kg/10a)		10a当たり収量 (kg/10a)		10a当たり 平年収量 (kg/10a)	作況指数 (%)
	本年	前年差	本年	前年差		
宮城県全体	547	-5	520	-7	514	101
東部	551	-6	524	-9	518	101

### (2) 1等米比率

- ・本県の水稻うるち玄米の1等比率は95.1%となっています（表18）。2等以下に格付けされた主な理由は，形質（67.2%），着色粒（23.2%），被害粒（6.9%）によるものです（東北農政局）。JA新みやぎ南三陸地区本部管内においても，落等要因として，形質，斑点米カメムシ類による着色粒の割合が多くなりました。

表 18 宮城県のうるち玄米における 1 等米比率（令和 3 年 10 月末現在，東北農政局）

1等米比率（％）	R3年産	R2年産	R元年産	H30年産	H29年産	H28年産
各年同期	95.1	90.5	63.6	92.9	84.2	90.4
各年最終		90.3	70.6	91.6	85.5	90.6

注) R2年産の最終は令和3年3月31日現在（速報値）

### （3）病害虫の発生（宮城県病害虫防除所）

- ・葉いもちの発生は、「やや多い」でした。7月8～12日にかけて全県で感染好適条件が出現し、一部ほ場で葉いもちの発生が見られ、7月9、21日に注意報が発表されました。
- ・穂いもちの発生は「平年並」で、出穂期以降高温で推移したことや、上位2葉の病斑が少なかったことが要因と考えられます。
- ・紋枯病は、発生量「少」でした。年々発生は増加傾向にありますが、紋枯病に効果のある箱施用剤を使用しているほ場においては、発生は少なくなっています。
- ・ばか苗病は、発生量が「平年並」となり、管内においては育苗期を中心に一部でばか苗病の発生が見られました。
- ・斑点米カメムシ類は、発生量が「多い」となりました。一方、斑点米被害はやや少なくなりました。8月中旬の気温が低く活動が抑制されたことや、割れ粃の発生も平年並となったこと、8月中旬発生量も平年より少なかったことから、課外期間が短かったものと推定されます。管内においては、お盆前後の降雨により適期防除を実施できなかったほ場があり、斑点米の混入による落等被害もみられましたが、被害は比較的少なくなりました。
- ・ばか苗病の発生は「平年並」であり、温湯浸漬方と生物農薬の併用により安定した効果が得られたと推測されます。
- ・稲こうじ病の発生はやや少なく、出穂直前の7月中旬の気温が平年より高く、降水量が平年より少なかったことから発病が抑制されたと考えられます。

なお、病害虫の発生状況の詳細については県病害虫防除所ホームページを御覧ください。  
 (URL : <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/byogai/>)

### （3）雑草の発生

- ・除草剤の効果が切れた頃に発生または再生した、ノビエ、ホタルイ、シズイ、コウキヤガラ、オモダカ等の残草が散見されました。
- ・水持ちの悪いほ場では除草剤の効きが劣ったため、初期からオモダカ、シズイの発生が多く見られました。

## 7 次年度の作付けへ向けて

- ・ほ場の土づくり  
 近年は、堆肥等の有機物施用が行われず、地力が低下しているほ場が多くなっています。地力の低下は、収量の減少、品質・食味の低下につながります。堆肥や土づくり肥料等を施用し、地力の向上に努めましょう。

※土づくりの詳細については「令和2年産気仙沼・南三陸 稲作情報第10号」をご覧ください。

- ・ほ場の残草状況に合わせた除草剤の選定  
 今年、残草が見られたほ場では、初期除草剤と初中期一発剤、初中期一発剤と中後期剤等を組合せた「体系除草」を行いましょう。また、水持ちの悪いほ場では、豆粒剤やフロアブルなどの水に溶けやすい剤型を用いると、田面水とともに有効成分が流亡しますので、粒剤の使用を検討してください。

除草剤は発生する雑草の種類によって、効果が異なります。発生又は残草した雑草に効果のある除草剤の選定など、不明な点については、当普及センターまでお問い合わせください。